

第42回奈良県中和病診連携の会報告

日時： 2018年7月21日（土）14時30分～17時00分

場所： 大和高田市立病院 放射線治療棟 3F 大会議室

参加者数： 医師 29名

院内職員（医師以外）5名

地域スタッフ（行政・訪問看護・居宅介護支援事業所等）13名 / 合計47名

<内容>

まず最初に、大和高田市医師会長 中谷晃先生より開会のお言葉をいただきました。

【Session 1】では、土庫病院 副院長 更屋勉先生の座長のもと、2つの講演を進行されました。

奈良県立医科大学 腎臓内科学 助教 鮫島謙一先生より「腎疾患の病病連携と病診連携について」、CKD診療ガイドライン、CKD重症分類をもとに様々な症例の検査や治療についてお教え頂きました。脱水における腎機能への影響や包括的腎代謝療法、腹膜透析の利点などについても詳しいお話があり病病連携、病診連携により、早期介入することでCKD重症化が予防できることを強く認識しました。

次に、当院 外科部長の山田高嗣先生より「当院における肝胆膵疾患に対する外科治療の取り組みについて」のお話をして頂きました。症状が出にくいために「沈黙の臓器」と呼ばれる肝臓がんや膵臓がん、そして胆嚢がんや胆管がんをいかに早期に発見して治療するかが重要であることを教わりました。



また、切除不能のステージ III の膵臓がんでも当院で新たに導入された高精度な放射線治療と化学療法を行うことにより外科的切除が可能になり根治切除できたことや、術前に残る肝臓が小さい場合でも肝臓を大きくしてから安全に肝切除できたことなど最新の外科治療を詳しく教えて頂きました。さらに、安全かつ有効ながん治療を行うためには、外科的治療だけでなく院内の様々な診療科との緊密な連携と協力のもと化学療法や放射線治療

などを含めた集学的治療に積極的に取り組み、患者さんを中心とした病院の総力をあげたチーム医療が最も大切であることをお教え頂きました。会場からは外科手術の進歩と根治手術の成績、生存率の向上などの希望ある話を聞かせてもらって感動したなどの声があがりました。



【Session 2】では、当院 地域医療連携センター長 高幣和郎先生、座長のもと進行いたしました。

奈良県立医科大学 腎臓内科学 教授 鶴屋和彦先生より「糖尿病性腎臓病：最近の知見」についてご講演頂きました。DKD（糖尿病性腎臓病）概念、病期は1～5期に分類され指標となるeGFRとアルブミン尿・タンパク尿との関連、病期評価など詳しくお教えいただきました。また、現在、治験中の2つの新薬についてのご紹介もあり、今後の有効な治療への期待についてもお教え頂きました。病態を適切に把握し、かかりつけ医と腎臓専門医、糖尿病専門医との連携の重要性について深く考える機会となりました。



今後も研修会を継続して実施し、奈良県中和医療圏での病診連携を推進していきたいと思っております。

お忙しい中、多数のご参加有り難うございました。

次回は平成31年2月9日（土）14時30分～ 開催予定